

2018 年北方森林学会春季行事報告-北海道におけるトドマツ利用の実態-

2018 年の春季行事は、6 月 28 日（木）に開催し、「北海道におけるトドマツ利用の実態」をテーマとして、苫小牧市を訪問し、1. トドマツを中心とした道産材の利用を積極的に進められている工場のうち、土木資材などを製造されている株式会社ヨシダと 2. 林地未利用材を燃材として昨年稼働した苫小牧バイオマス発電株式会社の 2 箇所を見学させていただきました。参加者は柿澤宏昭会長（北海道大学農学研究院）をはじめ総勢 28 名でした（北大 1、北海道森林管理局 16、森林総研北海道支所 6、北海道育種場 2、道総研 2、一般 1）。行程は、マイクロバス組は 9 時に札幌駅北口を出発し、10 時半に道の駅ウトナイ湖で自車組と合流し、午前には株式会社ヨシダを訪問させていただきました。その後、ウトナイ湖で昼食をとり、午後には苫小牧バイオマス発電株式会社に向かいました。

株式会社ヨシダでは、平成 27 年にラインが新設され操業を開始した明野北工場を見学させていただきました。生産性向上や量産・多品種対応に向けた工夫などについて教えていただきました。苫小牧バイオマス発電株式会社では、原木の集荷状況などの説明を受け、原料調達や含水率管理のご苦労などをうかがいました。貯木場を見学し、重機によるチップパーへの投入工程など、迫力ある現場を見学させていただきました。

いずれの訪問先でも、活発な意見交換が行なわれ、トドマツの需要を実感し、将来にわたる安定的な供給確保の重要性を考える良い機会となりました。なお、見学の詳細については、北方林業 2018 秋号に報告させていただいていますのでそちらをご覧ください。最後に、ご多忙の中、今回の見学を受け入れ、貴重なお話を聞かせていただきました株式会社ヨシダの吉田良弘社長と吉田勝利専務、苫小牧バイオマス発電株式会社の齊藤秀晴部長に厚く御礼申し上げます。



写真左は株式会社ヨシダにて。写真右は苫小牧バイオマス発電株式会社にて。当日は、貴重なお話を多数聞かせていただき、活発な質疑が行なわれました。